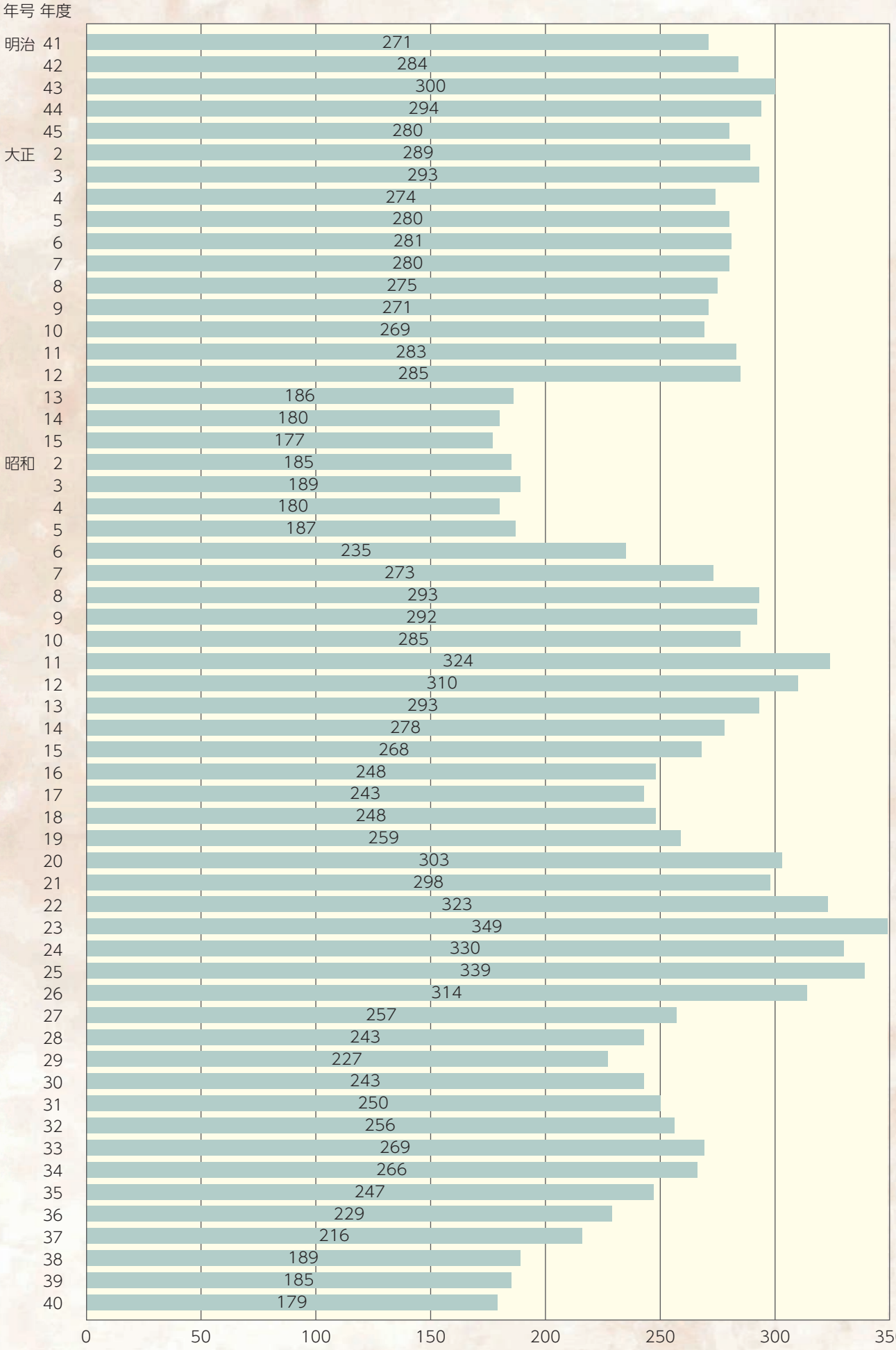
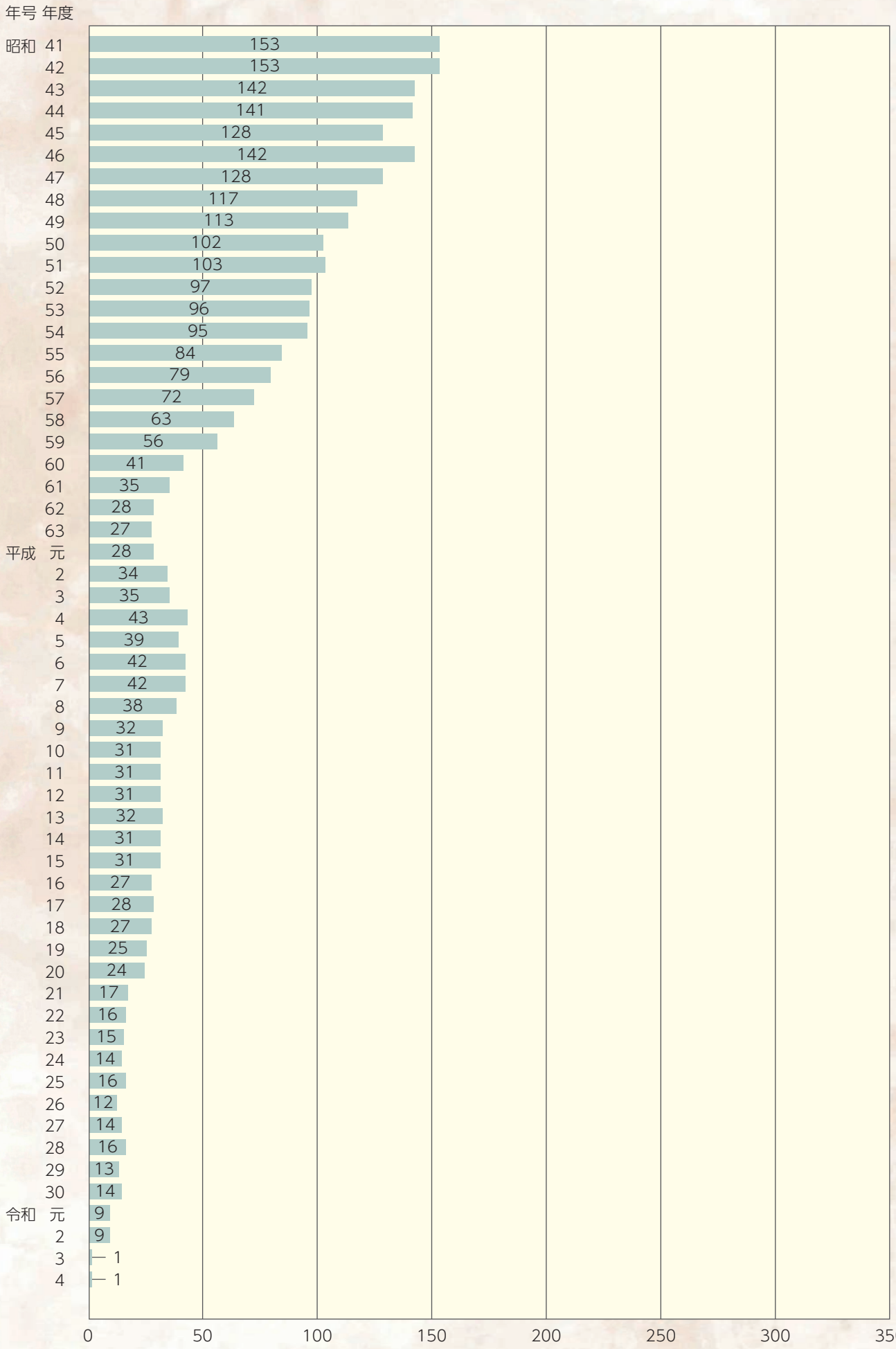
関連資料



昭和48年

児童数の推移


年号 年度
明治 41 271
42 284
43 300
44 294
45 280
大正 2 289
3 293
4 274
5 280
6 281
7 280
8 275
9 271
10 269
11 283
12 285
13 186
14 180
15 177
昭和 2 185
3 189
4 180
5 187
6 235
7 273
8 293
9 292
10 285
11 324
12 310
13 293
14 278
15 268
16 248
17 243
18 248
19 259
20 303
21 298
22 323
23 349
24 330
25 339
26 314
27 257
28 243
29 227
30 243
31 250
32 256
33 269
34 266
35 247
36 229
37 216
38 189
39 185
40 179
0
50
100
150
200
250
300
350



※昭和50年までの児童数は「江住小学校百年史」によるものです。高等科等は含まれていません。

江住、江須之川、里野、大鎌地区の人口及び世帯数の推移

区分 / 地区名	昭和 50 年 (1975 年)		平成 2 年 (1990 年)		平成 17 年 (2005 年)		令和 2 年 (2020 年)	
	人口	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数
江須之川	309	109	190	91	161	83	95	57
江住	639	231	439	190	357	177	240	121
里野	276	116	213	96	178	100	99	58
大鎌	77	27	35	21	16	9	5	3
計	1301	483	877	398	712	369	439	239

：国勢調査



昭和61年9月28日　江住小学校　秋季運動会



昭和51年3月21日　江住小百周年記念事業委員会メンバー



昭和51年3月21日　江住小百周年祝賀会



昭和50年1月 江須ノ川漁港



昭和51年8月　江住灯篭送り、江住海岸



昭和54年5月　江住区遠足（江住遙拝所境内）



昭和61年12月　江住支所



平成6年10月　江住区 祭り



平成6年10月10日　江住獅子舞保存会 子ども神輿新調記念



平成6年1月　江住厄払い投餅、春日神社遙拝所境内



平成10年9月　江住敬老会



江須之川区 祭り



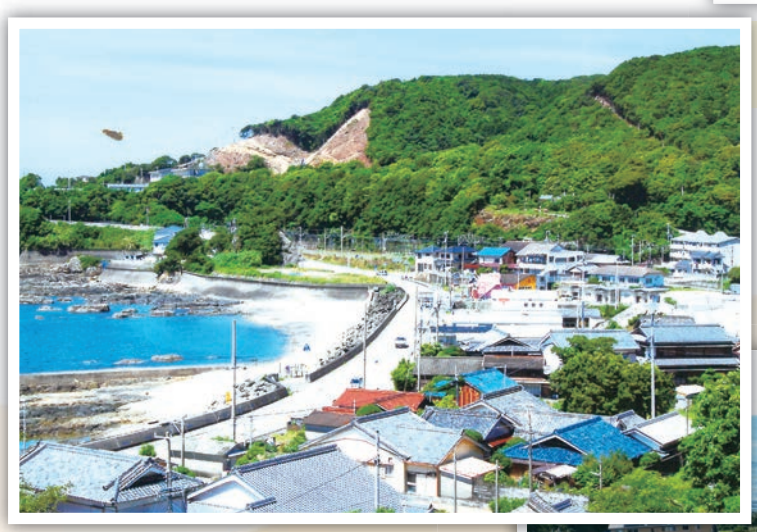
平成20年1月19日
江須崎厄除投餅を終えて、江須崎鳥居前



平成22年1月14日　江住の雪景色



平成24年4月11日
江住海岸に漂着したクジラ



紀勢道開通前の江住



道の駅全景

校地内にある石碑一覧

❶城桂谷先生之碑　大正10年設置(平成11年に校地内に再建)

❷二宮尊徳銅像　昭和29年設置
(昭和14年に設置されたが、昭和16年に太平洋戦争により金属供出された、昭和29年に再建)

❸南弥右衛門翁之像　昭和31年設置

❹頌徳(しょうとく)碑　昭和51年設置　※藤本政太郎氏は五郎氏の実兄
(藤本政太郎氏・藤本五郎氏)

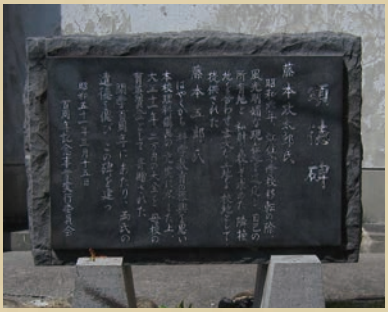
❺江住小学校沿革史碑　昭和51年設置

❻江住小学校閉校記念碑　令和5年3月設置（塩谷福夫氏　揮毫）


❶城桂谷先生之碑


❷二宮尊徳銅像


❸南弥右衛門翁之像

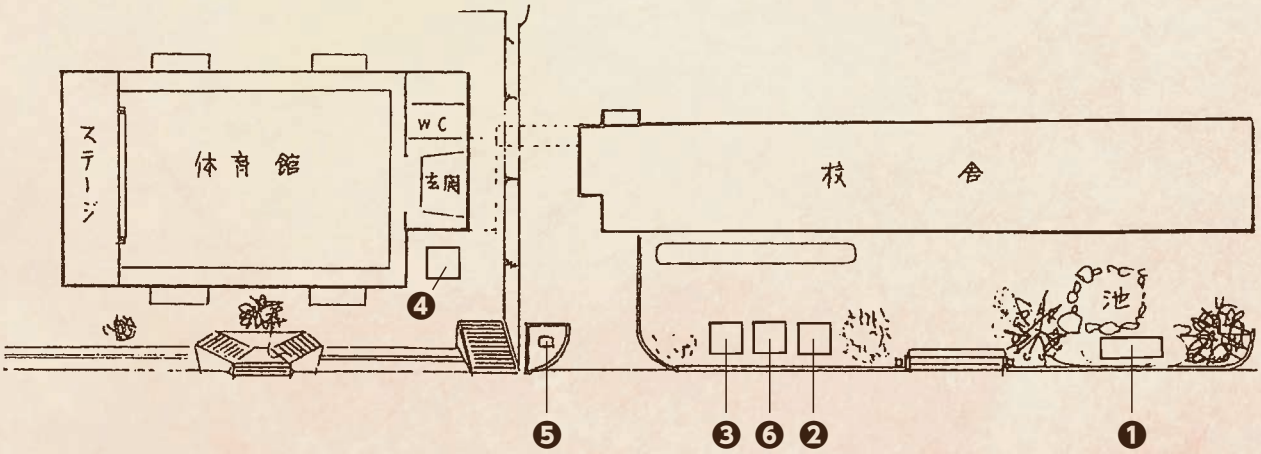

❹頌徳碑


❺江住小学校沿革史碑



❻江住小学校閉校記念碑

石碑配置図



開校125周年を記念して

人物 ― 本校卒業生

平成10年3月15日　江住小学校
本校は明治6年3月15日、潮音寺を借用して開校

城彦太郎(桂谷)

1847年城稲香の長子として生まれる。14才ごろから儒者土井聱牙(ごうが)の私塾に学んで帰郷。明治4年、24才の時第7区第6小区(見老津から橋杭まで22か村)の区長(行政責任者)

明治12年、第1回県議選に立候補して当選。



明治15年秋、近隣の村々に呼びかけ、有志143名からの3955円と私財を投じて、私邸内に寄宿舎を設けて熊野(ゆや)学舎を開校。紀南の中等教育の先鞭をつけた。門下生は53名。明治17年7月7日、学校経営が苦しくなり、串本からの帰り里野(城さんが淵)で投身。37才。城義雄氏(城医院)は孫にあたる。

藤本政太郎

1862年、江住に生まれる。明治27年から29年の間、江住村長。



昭和4年、紀勢線鉄道工事のために、江住小学校移転に際して現在の土地を提供した。(体育館用地は別)現在の土地は現地価に換算すれば1億円を越すといわれる。

藤本五郎

明治7年　江住村に生まれる。政太郎の弟。本校卒業後、和歌山中学校、東京帝国大学工学部卒業。その後アメリカ留学。

帰国後、電気工業界で活躍。本校へ実験器具類を数多く寄贈。



大正11年には2万円の大金を寄附。

政太郎と五郎の二氏の功績を讃えるため、体育館横に頌徳碑が建立された。(百周年記念事業)

南弥右衛門

明治13年12月2日江須ノ川生まれ。

明治19年小学校卒業。20才で結婚。長男弥太郎(1973年勲四等瑞宝章)は大正6年本校卒業。

23才の時マニラへ。マラリア病にかかり帰郷。

25才の時渡米。



サンタマリア平原を開墾し、レタス王と呼ばれるようになった。

昭和30年、勲四等瑞宝章を叙勲。江住中学校体育館、その他多くの寄贈。

昭和31年10月31日、本校校庭において全村2500名の来会のもと盛大なる南像除幕式が行なわれた。

昭和45年、勲三等瑞宝章。

浜中貫始(柑子)

明治18年5月3日江住村に生まれる。

明治42年1月より大正6年まで、本校の教員。ホトトギス同人。江住村長をつとめた藤内常四郎は教え子。

「下萌に鼻すりつけて親子鹿」

「もともと文学者として十二分な天分の上に和漢の学に撤し創作の体験もあり古典に関する幾種かの権威ある著書もあり浄瑠璃実演の隠し芸さえ身につけるという教養に加え人情味豊かに詩作の上に写生の大道に徹した人」(元東京芸術大学教授・浜田氏談)

藤内常四郎(千魚子)



明治44年、本校尋常高等科卒業。

江須ノ川生まれ。

昭和35年、本校育友会長。

江住村村長。ホトトギス俳人。

「皇太子さまのお成りや浜彎樹(はまわんじゅ)」

城佑藏(佑三)



大正10年10月江住に生まれる。

昭和19年病気療養中、藤内千魚子の指導で俳句を始める。昭和21年大野林火の「浜」に所属。「浜」賞を受ける。

昭和48年田川飛旅子の「陸」同人「港の雨祭りの雨となりにけり」

木村正男

明治36年、江住村に生まれる。大正5年本校卒業。

17才の時、米国に渡りロスアンゼルスで野菜マーケットを開く。



戦後フレズノ市でホテルや食料品の経営に着手。多くの留学生の世話をする。

死後、本人の遺志に従い遺族が江住に遺産を贈った。これを原資に木村奨学会が設立。

毎年卒業生に図書等寄贈されている。

濱田音四郎

明治44年11月15日江須ノ川に生まれる。大正15年本校高等科卒業。

昭和元年、横浜の海員高等養成所入学。当時日本最大の客船秩父丸の乗組員となる。

昭和14年に船がホノルルに寄港した際、出航に乗り遅れ、そのままホノルルで生活を送っていた。戦時中はホノルル、ニューメキシコなど米国の収容所を転々とし、終戦翌年に帰国。23年には故郷から上京しアメリカで人気のスナック菓子ポテトチップスの製造会社を興し、商売を着実にのばしていった。



日本ハワイ協会の会長。角界の東関親方を日本につれてきて、日本のお父さんとして育てた。平成3年、新宿区に1億円、世田谷区に5千万円寄附。

平成3年すさみ町特別名誉町民。

平成4年、すさみ町に5千万円、日本赤十字社に千二百万円寄附。

山形繁雄



昭和15年本校卒業。

ロス加州大学留学中、江住村人会1951年結成初代幹事として活躍。

昭和41年本校育友会長

元県会議員

奥村彪生(旧姓三木)

昭和12年江須ノ川生まれ。25年本校卒業。



伝承料理研究家。神戸山手女子短期大学教授。近畿大学理学部中退して土井勝料理学校へ。講師・教務主任を歴任して59年独立。料理教育の功績で大阪府知事賞。新聞・テレビで活躍する他、著書に「日本の食べ物」「復元万葉びとのたべもの」「日本料理秘伝集成」など多数。

校長室書庫に保存されていた3枚の資料

開校126周年を記念して

－ 大扁額 尊徳像と校訓 －

学校創立　明治六年三月十五日、潮音寺を借用して開校、子弟僅か二十名に充たず

平成11年3月15日
江住小学校

大扁額

校舎正面階段上に、江住小学校と書かれた縦72cm横267㎝の大扁額が掲げられています。

この立派な扁額は、だれが、どのようにして書いたものでしょうか。学校沿革史にその記述がみられます。

明治十年　校舎新築　校舎新築す。開校式に県令神山郡廉閣下来臨の栄に浴しけだし県下稀有の校舎と称せられる。閣下揮毫に係る往小学校の一大額を賜る。

また、扁額の左には、「明治壬午夏日
郡廉書之書」と書かれています。



開校126周年資料大扁額

このことから、

『明治10年の開校式に県令(今の県知事にあたる)神山郡廉さんが出席され、新築校舎を「けだし(考えてみると、想像するに)稀有(けう…まれにある。めずらしい。)」と称せられる(ほめてくださる)

郡廉さん揮毫(きごう…筆をふるうこと)の大扁額(だいへんがく…横に長い大きな額)を賜る(いただく)。

壬午(じんご…みずのえうま…明治15年)夏、郡廉がこれを書いた。』ことがわかります。

当時、鉄道もない時代、しかも道路も整備されていない時代に、閣下(かっか…高位高官の人に対する敬称)がこの江住の地にどのようにして、何のために来られたのでしょうか。おそらく、紀南地方にいちはやく開かれた教育への比類なき情熱が、県令をお招きすることになったのでしょう。

和歌山県の誕生　和歌山県の歴史(安藤精一)より

明治4年(1871)7月の廃藩置県にともない、和歌山・田辺・新宮の三藩は、それぞれ和歌山県・田辺県・新宮県となる。同年11月に田辺県・新宮県は和歌山県に統合された。

県令

明治４年11月から５年１月まで	津田正臣
明治５年１月から６年10月まで	北島秀朝
明治６年10月から16年10月まで	神山郡廉

二宮金次郎　松山市造著(ポプラ社)より

あなたは、きっと、本がすきな人でしょうね。この本の主人公の二宮金次郎も、本がだいすきでした。

けれども、金次郎は、うちがびんぼうでしたから学校へ行くことができません。それどころか、うちのお手つだいをしなければなりませんので、本を読むひまがありません そこでしごとをしながら、本を読みました。だれにもおそわらずに、ひとりで読みました。むずかしいところがあると、ひとりで考えました。本のなかみがわかってくると、こんどはほんとうにそうだろうかと考えたりしました。このようにして、いっしょうけんめいべんきょうしたおかげで、たいへんりっぱな人になりました。

どんなりっぱな人になったのかって? それはこの本を読んでくだされればわかります。二宮金次郎(1787~1856)

尊徳像と校訓

校庭に南弥右衛門像と並んで尊徳像が建っています。



戦前の学校では、よくこの尊徳像がみられたようですが、戦後の学校でみられるのはめずらしく、建っている学校は数えるほどだと思います。

この像はどのようにして建ったのでしょうか。

学校沿革史に次のように載っています。

昭和十四年
二宮尊徳翁銅像建設
十月二十七日　本日除幕式をなす。江住灘吉丸船主滝本五郎吉氏本年六月第三号灘吉丸進水に際し祝賀宴を催し当校に金壱百円を寄附せられたるが、これを有効に使用せんとて同氏に交渉のところ快諾。これに追加し、二宮尊徳翁の銅像を購入建設。

また、校訓については、次のように載っています。

昭和十四年　校訓改訂「至誠実行」
十月二十七日　当校従来の校訓は「本分を守れ」なりしが、今回大楠公と二宮尊徳像の建設により当校訓育の目標確立、校訓の改訂をなす。
根拠　当校目標の偉人代表
楠木正成公、乃木将軍、二宮尊徳
楠木精神　尽忠報国　滅私奉公、誠忠
二宮精神 至誠と実行
右より当村民の実情、海外発展の特性等より考察して前記の通り改訂す。

このことから、「当校には、楠木正成像と二宮尊徳像が建っていましたが、当村民の実情、海外発展の特性等より考慮して二宮精神を校訓とした」ことがわかります。

ところが、この尊徳像は太平洋戦争の金属類供出で昭和16年12月に撤去されます。楠公銅像も昭和18年に応召されます。

昭和十八年　楠公銅像応召　十二月五日　金属回収により本校楠公銅像も応召(藤内佐五郎氏寄贈)、赤タスキをかけ児童に運搬せしめ、江住駅まで見送る一般村民に多大の感激を与う。

戦後の混乱期からようやく脱却しはじめた頃、尊徳像は再建されます。

昭和二十九年　二宮尊徳銅像除幕式　四月八日　滝本五郎吉氏寄贈の尊徳銅像除幕式を行なう。

至誠実行(しせいじっこう)広辞苑より

至誠…①きわめて誠実なこと　②まごころ
実行…実際に行なうこと

校長室書庫に保存されていた３枚の資料

開校127周年を記念して
－ 桂谷と関係のあった人物 －

学校創立　明治六年三月十五日、潮音寺を借用して開校、子弟僅か二十名に充たず

平成12年3月15日
江住小学校

明治のはじめ、紀南地方でいちはやく中等教育の先鞭をつけた人物がいた。**城桂谷**である。彼は江住に熊野(ゆや)私学校を創立し、幾多の人材を養成し世に送り出した。

大正10年、彼の遺徳を偲ぶため門下生らは碑を建立した。

潮音寺寺山にあったその碑は台風により倒伏していたがこの度、桂谷碑再建委員会(仲邦和代表)によって、平成11年7月20日、江住小学校校庭に移転再建された。

なお、この碑は町文化財に指定された。





大正12年笠松に建立当時の頌徳碑

城彦太郎(桂谷)（1847～1884）関係年表

西暦	和　暦	年令	事　　項
1847	弘化４	0	城稲香の長男として江住で生まれる
1849	嘉永元	1	・小幡楽山生まれる
1850	嘉永２	2	・児玉仲児生まれる
1852	嘉永６	6	☆ペリー浦賀に来航
1854	安政元	7	・土井聱牙塾を開く
1862	文久２	15	土井塾へ入門
1866	慶応２	19	土井塾から帰郷
1867	慶応３	20	代官所在銃隊教授方になる
1868	明治元	21	☆明治維新
1869	明治２	22	・父稲香民政局判事になる
1871	明治４	24	民政局史生(書記)になる
1872	明治５	25	第７区第６小区長になる
1873	明治６	26	●江住小学校創立☆潮岬灯台開設
1874	明治７	27	・神山郡廉県令になる
1876	明治９	29	☆廃刀令
1877	明治10	30	江住小学校開校式に神山県令来臨
			・児玉仲児猛山学校創立
1879	明治12	32	第1回県議選に当選
			・児玉、浜口も当選
1880	明治13	33	父稲香亡くなる・土井亡くなる
			熊野学舎創立準備はじめる
			児玉浜口らと国会開設議書を提出
1881	明治14	34	浜口らの木国同友会に所属
1882	明治15	35	・８月神山の「江住小学校」扁額を賜る
			●１０月熊野学舎創立　門下生５３人、教師に小幡、深見を迎える
1883	明治16	36	熊野学舎の県立許可申請運動はじめる　５月県議を辞める
			・１０月神山県令を離任
1884	明治17	37	串本へ資金集めにでかける
			７月７日帰路里野浦で投身自殺
			熊野学舎閉校

土井聱牙(ごうが) 1817~1880

桂谷の師。儒学者。名は有格。伊勢・津の生まれ。明治2年~4年津の藩校有造館の第5代校長となった。中国の歴史、地理に明るい。奇行に富んだ市民的学者として土地の人々に親しまれ、その奔放な書画は今でも珍重されている。「聱牙遺稿」10巻は、彼の死後に門人が集めたもの。－世界大百科事典(平凡社)より抜粋－

児玉仲児 1849~1908



桂谷より2歳下で土井塾の同期生。また第1回県議選にも同じように当選している。

桂谷が熊野学舎を創立した時に、教授陣として千田一十郎を派遣し、協力した。

那賀郡中山村(現粉河町)の庄屋に生まれた。9歳で高野山で学を修め、14歳のとき学僧に伴われて奥州地方を視察見学。明治6年には慶応義塾に入学。卒業後、大蔵省記録局主任。退官し明治9年、政府の地租改正の不当を批判し、県令神山に陳情。更に内務郷大久保利通に農民の窮状と県令の悪政を建白した。

明治15年に県会副議長、18年に議長、23年に衆議院議員。

明治10年に粉河に猛山学校を創立した。

神山郡廉 1829~1909



高知県士族の生まれ。39歳の時、土佐藩より命を受け、後藤象次郎らと大政奉還王政復古の 儀を徳川慶喜に建白した。明治6年、和歌山県(今の県知事)になった。気骨な人で、桂谷が熊野学舎の県立許可申請を行なったが聞き入れなかった。明治10年、江住小学校の開校式に来臨し、後、揮毫の「江住小学校」を贈った。この扁額は今も本校に掲げられている。

浜口梧陵 1820~1884



有田郡広村(現広川町)に生まれた。名は成則。梧陵の家は代々湯浅醤油の醸造元で千葉県銚子に進出していた。30歳の時、江戸に出て開国論を主張した。慶応2年、耐久学舎(現耐久高校)を設立、青年教育にあたった。明治元年、和歌山藩勘定奉行。1854年にあった安政地震は湯浅湾に大津波が押し寄せたが、その時、被災者の避難と応急救助に全力をあげた話「稲村の火」は戦前の教科書に掲載されて有名である。

明治12年の県議選で当選し、初代議長となった。同14年には木国同友会を結成して会長となり、政治意識を高めて国会の開設にそなえた桂谷もこの会に所属していた。

小幡儼太郎　1848~1908



桂谷より1歳下。熊野学舎の教授陣として桂谷に協力した。

和歌山の生まれ。父は田辺藩士。号は楽山。桂谷と同じように土井塾で7年間学び田辺に帰った。明治15年から同25年まで県会議員をつとめ、紀南の開発に力をそそいだ。27年に衆議院議員に当選した。

かつて東京大学文科教授に推されたが、固辞して受けなかった。

深見確 1859~?

小幡に漢学を学んだ。小幡の推薦で熊野学舎の教師になる。「桂谷先生の碑」の碑文をつくった。明治26年には2代目の田辺町長になっ ている。

辻恒民 1869~1942

桂谷の門下生。大正14年から昭和4年まで江住村長を勤めている。「桂谷先生の碑」の建立発起人。

校長室書庫に保存されていた３枚の資料



大鰐地区から10㌔の峠越え江住小へ

1年生の辰己麻緋ちゃん

たった1人でタクシー通学

JR江住駅からは友達と歩いて通学

過疎地の通学を守る

紀伊民報：1998年（平成10年）10月29日（木）



紀伊民報　2010年(平成22年)8月21日　土曜日　第20367号　(10)

郷土の灯

江住小学校

29

学校と地域の物語

地域の優しさに包まれて

一緒に仲良く下校する子どもたち

沿革

1873年　願音寺を借用して開校
1877年　校舎新築
1885年　通修小と改称、その後数年で江住小に戻る
1906年　現在のJR江住駅付近に新築移転
1931年　現在地に新築移転
1941年　江住国民学校に改称
1947年　江住小学校に改称
1971年　里野小学校と統合
1972年　新校舎完成
1978年　大鰐小学校と統合

1877年の江住小学校落成式に出席した神山郡廣県令直筆の書

●開校は学制発布翌年

●校歌

朝夕あおぐ　清水山
すがたは高く　かげ清く
動かぬ力　大空に
雨風しのぎ　そびえ立つ
いざや江住の　学びどよ
世にたぐいなき人となれ

1930年(この翌年、作詞作曲者は不明ながら、作詞は歴代校長の中で最初期（1915～20年）を務めた高岡という説がある。戦時中は一時、国家主義的な歌詞に書き換えられた。

●国正医師

●教育熱心な土地柄

●積極性や体力を強化

●地域で子ども見守る



紀伊民報 2007年(平成19年)12月14日 金曜日 第19544号

ふるさと探訪
すさみ町江住
28

すさみ町江住は、山が海岸に迫り、平地が少ない。農地も少なく、良好な港がなかったことから、多くの人たちが生活の場を求めて外へ飛び出した。米国など海外では農業で、京阪神では綿業市として成功した人が多い。その進取の気性、不屈の精神は、まだ、脈々と受け継がれている。（畠原弘次）

地元の偉人、南弥右衛門統の胸像を囲む江住小学校児童

受け継ぐ郷土の誇り
米移民の南弥右衛門

地元の小高い丘に25人で大成功を収めた「カリフォルニアのレダス王」の銅像が建つ江住小学校がある。校舎横に胸像を見つけた。南弥右衛門と銘板にあり、「郷土の偉人」とある。開けば江住からの米移民の一人のことだという。

国に貢献し、農業や貿易で大成功を収めた「カリフォルニアのレダス王」南弥右衛門統。

地元の小高い丘に25人で大成功を収めた「カリフォルニアのレダス王」の銅像が建つ江住小学校がある。校舎横に胸像を見つけた。南弥右衛門と銘板にあり、「郷土の偉人」とある。開けば江住からの米移民の一人のことだという。

国に貢献し、農業や貿易で大成功を収めた「カリフォルニアのレダス王」南弥右衛門統。

地元の小高い丘に25人で大成功を収めた「カリフォルニアのレダス王」の銅像が建つ江住小学校がある。校舎横に胸像を見つけた。南弥右衛門と銘板にあり、「郷土の偉人」とある。開けば江住からの米移民の一人のことだという。

国に貢献し、農業や貿易で大成功を収めた「カリフォルニアのレダス王」南弥右衛門統。

地元の小高い丘に25人で大成功を収めた「カリフォルニアのレダス王」の銅像が建つ江住小学校がある。校舎横に胸像を見つけた。南弥右衛門と銘板にあり、「郷土の偉人」とある。開けば江住からの米移民の一人のことだという。

国に貢献し、農業や貿易で大成功を収めた「カリフォルニアのレダス王」南弥右衛門統。

海岸に山が迫る江住のまち

「アメリカさん」や「煮豆屋さん」らの寄付で再建された春日神社江住遥拝所

地元の珍しい海の生き物が楽しめるエビとカニの水族館

200種以上の亜熱帯性植物の原生林がある江須崎

不屈の精神受け継ぐまち

人 ひと 人 見どころ

JR江住駅 地域で守る玄関口

JR江住駅は、簡易化とともに無人になった。地域の人が協力して、江住の玄関口を守っている。

自称とも「応援する駅人」。森口正一さん（85）は「駅舎に出た子どもらが帰ってきた時、ほっとしてほしい」と、80年から、駅の清掃を続けている。

公民館の会員13人は「利用者に美しくもらいたい」と月1回ほど、駅舎を掃除している。

「江住駅を愛する会」を結成した、南紀熊野ロイヤルホテルの後藤敏晴・総支配人（48）が教えてくれた。

近年は生徒数が減り、地元の年配の人が、当時の様子を語り聞かせる機会にしようと、駅舎を開いて思い出の写真などを展示している。

美容室3店、理容店2店

江住川沿いに広がる毛地の中心部に、美容室3店、理容店2店が軒を連ねている。

かつては住民はほとんどが農業や漁業に従事。多くの人でにぎわった。山間部の人は「まちに出たついでにおしゃれをする」。理美容店が多いのはその名残という。

「理容シルバー」も長い。2代目の田中敏さん（65）が店を守る。「今はいちげんさんはいない。何十年と通う人ばかりと田中さん。常連が気さくに声をかけ、昔の情報を交換する場にもなっている。

森下酒店 国道沿いピンク色の建物

国道42号沿いにあるピンク色の目立つ建物は地域の人が頼りにする「森下酒店」。2代目の森下貴之さん（48）と妻の千弘（44）が営んでいる。

新婚当初は「ハイカラ」、あこがれだった「ロイヤルハウイアン」は古くて怖くなかった。特徴ある頑丈なピンク色の建物が印象に残った、それを受け継ぎ、店では酒以外に食品や釣り道具、不思議な雑貨なども売っている。

「酒屋さんは、なんでもあるね、取り寄せてほしいわれて仕入れ、並べてみたものの、売れないものが多かった。

日本童謡の園公園

日本童謡の園公園は、数多くの詩を書いた野口雨情が晩年に訪れたり、「大きな古時計」の作詞をした作詞家の保富康午さんがすさみ町出身であったりしたことなどから、1989年10月、日本初の童謡の公園として開設された。

ブロンズの人形や歌碑があり、センサーが反応して童謡が流れる。「まりと鈴緒」「七つの子」など計10曲が流れ、園内を歩くだけで、懐かしい気分になれる。

次回は田辺市浦神周辺です。

Merry Christmas
プレゼントに、かわいいお洋服やバッグなどいかがですか
★ラッピング無料です
ジュニア&子供服
CELGE セルジュ
BOYS&GIRLS 100cm～160cm
TEL0739-24-0308

明洋団地 売土地 稲成町
有限会社 ヒロセ
〒646-0031 田辺市湊716-2 TEL26-6800

おいしさ絶品！
ちょっぴり贅沢な おせち料理 只今予約承り中
地元産を取り入れ、郷土の味を満載しています
●おせち重箱付
三段重（3人～5人前） 30,000円
二段重（2人～3人前） 20,000円
一段パック（1人～2人前） 10,000円
●さんま寿司……1本 525円
●さば棒寿司……1本 1,050円
●上巻寿司……1本 840円
●ひとはめ寿司…1本 525円
ご予約は TEL22-0834
宝来寿司
ひとはめ寿司本舗
TEL(0739)22-0834 FAX(0739)24-5041

看護師さん募集!!（若干名）
詳細は面談の上お話しいたします
ご希望の方は履歴書（写真貼付）を下記まで郵送下さい
追って面接日等連絡いたします
スマイリング訪問看護ステーション
〒646-0051 田辺市稲成町411-2 Tel.25-5132

今年一年間お世話になりました。
○印の日がお休みです。
12月 日 月 火 水 木 金 土
16 17 18 19 20 21 22
23 24 25 26 27 28 29
2008年 1月
30 31 ① ② ③ ④ 5
老化予防のカラーリング
ワカヤマ本舗
TEL0739-26-8556

この冬一足はやく幸せ気分
花みつのいちご大福
数量限定
12月14日・15日・16日の3日間 全店同時開催！
大きく新鮮なイチゴを丸ごと使った花みつ特製のいちご大福です
通常価格1個136円を 幸せ価格 1個105円（税込）
年末年始のごあいさつに
店内多数展示中！
花みつ HANAMITSU

郷土の偉人の生涯劇に

地域学習発表会で披露

すさみ 江住小



劇「南弥右衛門物語」を演じる児童（すさみ町江住で）

すさみ町の江住小学校は10、11月、校区内の江須之川、里野、江住の各地区で地域学習発表会を開いた。全校児童9人は郷土の偉人、南弥右衛門の生涯を描いた劇を地域住民に披露した。

江住小は毎年、学習発表会で地域住民に作文や歌などを発表し、地域住民と親睦を深めている。本年度は山口仁美校長が脚本を書いた劇「南弥右衛門物語」に挑戦した。

南弥右衛門は江住村出身。明治時代に渡米して農業や貿易で成功した。戦後も江住の子どもたちに文房具などを贈ったり、江住中学校の体育館（現・町立エビとカニの水族館）を寄贈したりして遠く離れた故郷を思いやった。江住小には弥右衛門の胸像が設置されている。

江住公民館には、江住地区の住民ら30人ほどが集まった。劇では、児童は着物や法被を着て登場し、ダンスや歌を交えながら、南弥右衛門の生涯と他の移民に与えた影響、江住への貢献を伝えた。

参加住民との懇談会では、南弥右衛門と会ったことがある人が数人おり、エピソードを聞くことができた。他にも児童は作文の発表や合唱を披露した。

5年生で児童会長の吉田侑月さん（11）は「発表会は地域の人たちとの触れ合いとなる良い取り組み。南弥右衛門さんについて詳しく知らなかったので偉業が知れて良かった」と話した。

すさみ町周参見の宇井清子さん（72）は「発表会は地域の人たちとの触れ合いとなる良い取り組み。南弥右衛門さんについて詳しく知らなかったので偉業が知れて良かった」と話した。

紀伊民報：2019年（令和元年）11月22日（金）



紀伊民報 1999年(平成11年)12月11日 土曜日 第17082号 (16)

江住小

シマリス8匹を飼育中

児童らが愛情を注ぐ

かわいいシマリスはどもたちの"人気者"。すさみ町立江住小学校（橋本幸校長）では現在、八匹のシマリスを飼育しており、飼育・環境委員会の児童らが熱心に世話を続けている。昨年、今年と春先のベビーが計六匹も誕生。小屋の中を元気に走り回ったり、愛らしいしぐさでひまわりの種などをほおばっている。

平成九年の夏、リスに詳しい奈良県天理市の鈴木次男さんが、つがいのリスを同校に寄贈したのが始まり。校舎の側には、広さ約四平方㍍の飼育小屋が設置され、児童の金網を近くの木まで伸ばし、その中をリスたちが自由に行き来できるようにと工夫もされている。

昨年産まれた三匹の赤ちゃんリスは、全校児童から名前を募集した結果、それぞれエッピー、スッピー、ミッピーと命名された。今では、小屋の中を動き回ったり、ひまわりの種をおいしそうにほおばるリスを見ても、親子の見分けがつかないほどに成長。ただ、無事に成長するリスもいれば、小屋の網目から侵入したヘビにのみ込まれてしまったかわいそうなリスもいるという。

手のひらからエサを与えるなど、リスもすっかりなついている四年生の岸井あやかちゃんは「食べ物をあげたら、リスがたくさん集まってくるのでうれしい。エサをあげるのが楽しみ」と笑顔で話していた。飼育委員会のメンバーは当番を決め、休憩時間を利用してエサやりや水やり、小屋の掃除を行っている。

かわいがっていたリスに死なれ、つらそうに窓を作る児童の姿もあった。「リスを育てることで、生き物を大切にする優しさや思いやりを身につけてくれた」と橋本校長は話す。田辺・日置地方の小学校で飼っているリスと結婚させる計画もあるという。

ひまわりの種をおいしそうにほおばるシマリス

校舎の近くには立派な飼育小屋が設置されている（江住小学校で）

紀伊民報：1999年（平成11年）12月11日（土）



紀伊民報　2020年(令和2年)12月4日 金曜日　第23519号　日刊

紀南中等教育の先駆け

城桂谷の演劇披露

すさみ 江住小児童9人

すさみ町の江住小学校（山口仁美校長）はこのほど、同町の江住公民館で、保護者や地域住民を招いた地域学習発表会を開いた。全校児童9人が、紀南地方での中等教育の先駆けとなる「熊野（ゆや）私学校」を開いた江住出身の城桂谷（じょう・けいこく）を題材にした劇を披露した。

城桂谷は1847年生まれ。初代県会議員を務め、82年に紀南初の中学校「熊野私学校」を開いた。熱意と功績をたたえる顕彰碑が江住小学校の玄関前に建てられている。

劇は、城桂谷の生涯を題材にした。児童は「江住村に生まれ、子どもの頃は彦太郎という名前でした」などと解説を交えながら、城桂谷が熊野私学校を開くまでの経緯や、学校を続けるための資金集めがうまくいかず海に身を投げた場面などを演じた。

城桂谷役を演じた5年生の日下瑛心君（11）は「資料を読んだり、顕彰碑に書かれていることを勉強したりして、城桂谷さんについて調べてきた。すごく教育について熱心に考えていたことが分かり、自慢に思う。もっといろんな人に知ってもらいたい」と話した。

地域学習発表会は、江住公民館を含めて地域の計3カ所で開いた。

劇「城桂谷物語」を披露する江住小学校の児童（すさみ町江住で）

紀伊民報：2020年（令和2年）12月4日（金）



すさみ・江住小

住民参加で「みんなの学校」

音楽の授業、合奏を楽しむ

すさみ町の江住小学校は、児童と住民が交流する機会にしようと、住民参加型の授業「みんなの学校」を月1回のペースで開いている。11月の教科は音楽。さまざまな楽器を使って、皆で合奏を楽しんだ。

本年度、江住小学校に通っているのは2年生の山形光さん（8）だけ。学校は山形さんに人との関わりを大切にしてもらいたいと、校区内の住民に参加を呼び掛けて、5月から月1回、学校で「みんなの学校」を開いている。毎回5～6人の住民が参加しており、音楽のほか、これまで絵手紙やフラワーアートの体験をした。

音楽の授業に取り組んだ11月の「みんなの学校」では、まず担当教員が児童の山形さんの他、山形さんの母親の直美さん（41）を含む参加者5人の名前を一人ずつ呼び、出席をとった。

授業では最初に、リズムの勉強をしている山形さんが、教員と一緒にウッドブロックやカスタネット、マラカス、タンブリンなどの打楽器を実演を交えながら紹介した。

その後、木琴やタンブリンなどそれぞれが好きな楽器を使って、合奏曲「山のポルカ」に挑戦。山形さんが鍵盤ハーモニカでメロディーを吹き、合奏をリードした。

参加した水谷守さん（83）は「学校で子どもと一緒に過ごせて、大変楽しかった」と笑顔を見せた。直美さんは「学校での娘の様子を見た住民の方に『光ちゃん、よう頑張ってるね』などと日頃から声を掛けてもらえ、とてもありがたい」と話した。

山口仁美校長は「回を重ねるごとに親しくなり、交流が深まっていると感じる。住民の皆さんとのコミュニケーションを通じて、児童にも良い変化が見られる」と話している。

次回の「みんなの学校」は12月16日。人権について考える道徳の授業を開く予定という。

「みんなの学校」の授業で、さまざまな楽器を使って合奏する児童や住民（すさみ町江住で）

紀伊民報：2021年（令和3年）12月2日（木）
※「みんなの教室」

株式会社 紀伊民報様のご厚意により、記事を掲載させていただきました。

木村正男さんのご遺志から創設された木村奨学会

江住小学校150周年を記念するこの年が奇しくも江住小学校閉校の年となってしまいました。この度、江住小学校150周年・閉校の記念行事を行うにあたり木村奨学会の全面的ご支援を賜ることとなりました。心から感謝申し上げますとともに木村正男さんを偲びそのご遺志である木村奨学会をここに紹介します。



木村正男さん夫妻

故木村正男さんは14歳で渡米されましたが見ず知らずの外国で言葉は通じないしかも当時は珍しくなかったものの密航者であったことからあらゆる辛酸をなめる日々であったとのことです。そのご苦労の中にあって常に勉学を志し「人生は死ぬまで勉学である」との信条をもって貫き毎日2時間ずつの読書を欠かさず続けられたそうです。

昭和52年11月16日不幸にして凶弾に倒れカリフォルニア州フレズノの地で74歳の生涯を閉じられましたが若くして郷里をあとにしたにもかかわらず愛郷心が強く故郷の風物を愛し日常は故郷の方言を使い通されたそうです。そしていつの日か故郷のために少しでも貢献したいとの情熱を燃やし続けておられました。

志半ばにして突然のご逝去ではありましたがご遺族の方々が木村正男さん生前の日常の言動からそのご遺志をおもんばかり昭和53年3月、故郷の子弟奨学の用にと二千万円をご寄付くださり、これを基金に木村奨学会が創設されました。

以降、江住小学校と江住中学校の卒業生に毎年卒業記念として辞書を贈呈、学業やスポーツで著しい成果が認められた児童・生徒達に対しては功労賞を贈呈いただき、かくも長年にわたり江住小学校、江住中学校の教育活動に対するご支援を続けてくださいました。

そしてこの度、江住小学校150周年と閉校の記念事業を同日に行うにあたりこのような全面的ご支援を賜れることとなり感無量であり感謝の念に堪えません。卒業生はもとより保護者、地域の住民の皆様に成り代わり心からお礼申し上げます。ありがとうございました。

江住小学校150周年・閉校記念事業実行委員会

木村正男さんの略歴

1903年7月9日（明治36年）
江住村大字江住
父 木村栄四郎
母　　く　に　　の長男として生まれる。

1917年(14才)(大正7年)
江住尋常高等小学校卒業。

1917年
米国シアトル市に上陸、以後スクールボーイとして働きながら高校卒業。
その後も農場 製材所、鉄道建設現場等で日雇労務者として就労。

1924年(21才)
自力で農業を経営。

1930年(27才)
ロスアンゼルスに転住、野菜店、食料品店に就職。

1935年(32才)
自力で野菜店を開業後徐々に拡張して小型スーパーとして経営。

1942年(39才)
日米戦争のため店は没収されコロラドキャンプに収容される。

1945年(42才)
収容所から解放される。

1946年(43才)
加州フレズノ市に於いてホテル開業。

1947年(44才)
同市に於いてコロンビア食料品店を開業。

1950年(47才)
同市に於いて店を4倍に拡張しスーパーマーケットとして経営。

1961年(58才)
店を更に4倍に拡張して同市最大のスーパーマーケットとして現在に至る。

1977年(74才)(昭和52年)
11月16日死亡。



木村正男さん経営のボーイス マーケット

「100周年から150周年へ」



100周年事業に参画した私が、50年を経て今回の150周年事業に実行委員として取り組ませていただいていることは、幸せで感慨深いものがあります。

当時、育友会あげての取組でしたが、その中心となって活躍した７人(校長、教頭を含む)のうち４人の方々は鬼籍の人で50年の歳月を感じます。私は主として百年史の編集にあたりましたが、明治から昭和、特に戦中戦後の激動の時代の江住小学校と江住地域の変遷を記録するため、地区内での資料集めや聞き取り調査等に約１年余り費やしました。

７人のメンバーは事業の理解をいただくために地区懇談会を開くとともに事業資金等の協力を仰ぐため、当時、隆盛期にあった京阪神地区の煮豆屋さんをはじめとする卒業生のみなさんを訪問したり、現地での集会に足を運びました。

記念式典には江住小学校に在勤されていた多くの先生方や卒業生が出席され、新装なった体育館が地域からの参加者や在校生で満席になる盛況でした。

佐本地区に移住していた元大阪フィル所属の音楽家の指導を受けて、この日のために練習を重ねてきたお母さん達が見事な歌声を披露、来場くださっていた県警察音楽隊の演奏もあり会場は大変な盛り上がりでした。特に在校生が当時流行していた「およげ！たいやきくん」を音楽隊の伴奏をうけて、声をはりあげていたのが印象的でした。

今回も山口校長先生と共に本誌の編集に当たらせていただきました。昭和51年以降の卒業生の中の11名のみなさんから在校時の思い出等の寄稿をいただき、当時在籍されていた先生方の代表６名の方にも寄稿いただきました。それぞれが江住小学校への熱い思いを彷彿とさせる文章で本誌をより充実したものにしていただきました。ご協力ありがとうございました。

51年以来の50年間は児童数の減少が続き、地域も過疎、高齢、少子化の進行が著しいものでした。しかし、近年、高速道路の開通や道の駅、水族館、コンビニ、ホテル等の進出があり、地域を取り巻く情勢も新たな変貌をとげつつあります。

この江住小学校も急激な過疎と少子化のため、今年度で閉校の運命で、卒業生の一人として断腸の思いですがこれも時代の趨勢です。近隣の中でも有数の歴史と伝統を持つ本校の歩みが、この150周年記念誌により末永く江住地域の文化遺産となることを祈念するものです。

江住小学校150周年・閉校記念事業実行委員会

小倉　重起（昭和23年度卒業生）

江住小学校 150 周年・閉校記念事業実行委員会名簿

山形　勇真	実行委員会委員長、運営委員 (映像編集)	平成　9年度卒業	江住小学校育友会長
石川　　明	実行委員会副委員長、運営委員 (石碑･式典)	昭和 39 年度卒業	江住区長、木村奨学会役員
小倉　重起	運営委員 (記念誌編集)	昭和 23 年度卒業	江住小学校百年史編集責任者
冨永　　弘		昭和 24 年度卒業	江住公民館長・保郷会、木村奨学会会長
竹本　源一		昭和 34 年度里野小卒業	里野区長
田中　　徹			平成 15 ～ 17 年 校長
村上　利博		昭和 41 年度卒業	平成　7 ～ 16 年 教頭
片倉素和子	運営委員 (記念誌編集)	昭和 41 年度卒業	木村奨学会役員
山形　　勇		昭和 48 年度卒業	江須之川区長、木村奨学会役員
仲　　哲生	運営委員 (石碑・式典)	昭和 54 年度卒業	
斧　　進	運営委員 (石碑・式典)	昭和 56 年度卒業	木村奨学会役員
橋本　由紀	運営委員 (映像編集)	昭和 56 年度卒業	学校運営協議会委員
永野　未訓	運営委員 (映像編集)	平成 20 年度卒業	
佐々木宏枝			学校運営協議会委員、元江住小育友会長
山口　仁美	事務局、運営委員 (記念誌編集)		江住小学校長

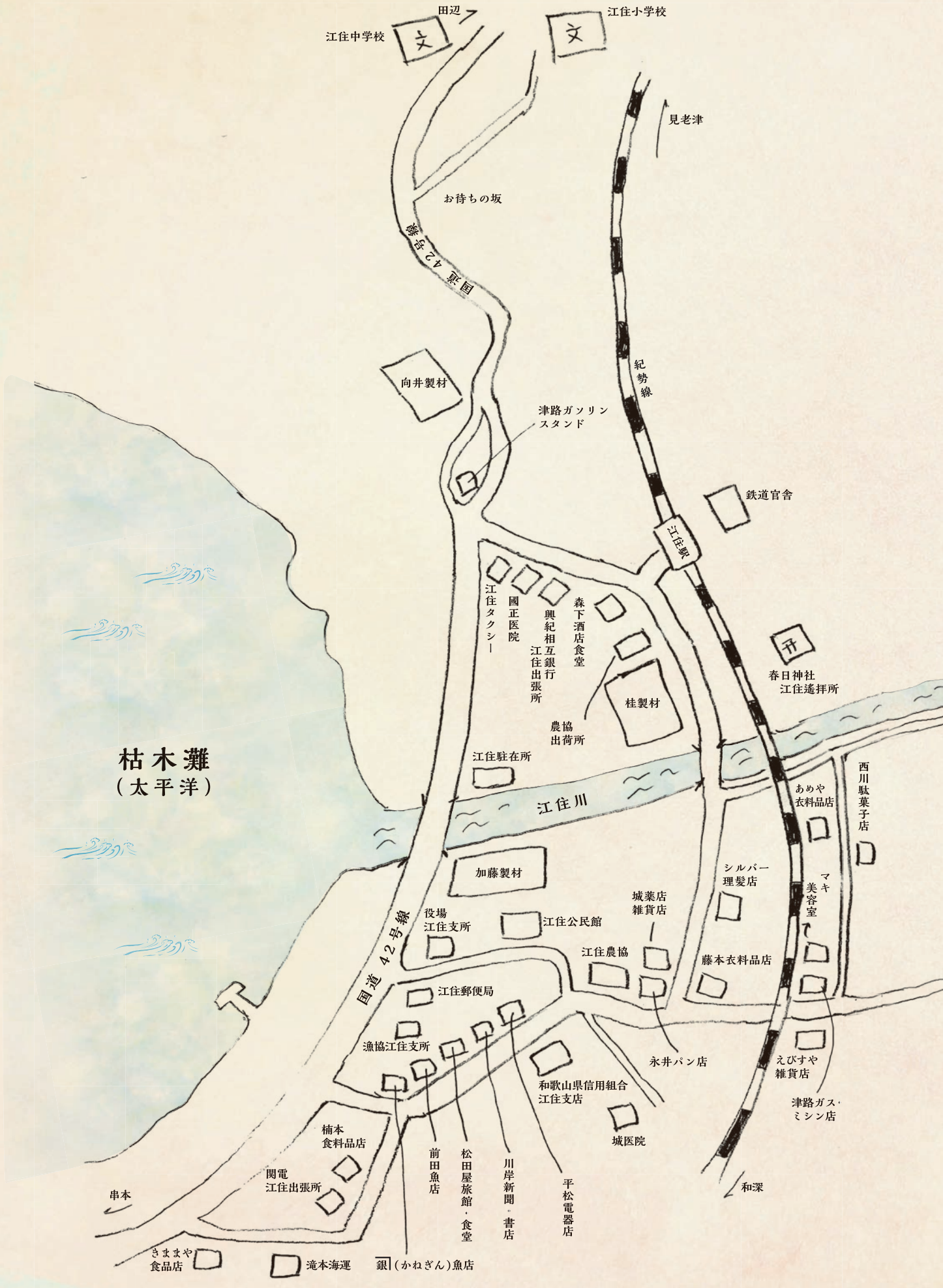
表紙題字　橋本由紀

参考資料一覧

『江住小学校百年史』昭和 51 年 3 月 15 日発行
『すさみ町史』下巻　昭和 53 年 8 月 10 日発行
『南弥右衛門翁 叙勲記念』南翁銅像建設発起人会　昭和 32 年 4 月 20 日発行
『城桂谷と熊野私学校』　桂谷碑再建委員会　平成 11 年 7 月 20 日発行
『江住 1963』ESUMI-SONJIN DIRECTORY　米国カリフォルニア州江住村村人会　昭和 38 年発行

すさみ町立江住小学校 創立百五十周年記念誌

発　行　日　2023年(令和5年) 3月 26 日
発　　行　すさみ町立江住小学校
〒649-3142 和歌山県西牟婁郡すさみ町江住 670
TEL：0739-58-0008
編　　集　江住小学校150周年・閉校記念事業実行委員会
制作・印刷　株式会社マージネット
TEL：0739-83-3344


田辺
江住中学校
江住小学校
見老津
お待ちの坂
国道42号線
向井製材
津路ガソリンスタンド
紀勢線
鉄道官舎
江住駅
江住タクシー
國正医院
興紀相互銀行江住出張所
森下酒店食堂
桂製材
農協出荷所
春日神社
江住遙拝所
江住駐在所
江住川
西川駄菓子店
あめや衣料品店
シルバー理髪店
マキ美容室
加藤製材
城薬店雑貨店
役場江住支所
江住公民館
江住農協
藤本衣料品店
国道42号線
江住郵便局
漁協江住支所
永井パン店
えびすや雑貨店
和歌山県信用組合江住支店
津路ガス・ミシン店
城医院
楠本食料品店
関電江住出張所
串本
前田魚店
松田屋旅館・食堂
川岸新聞・書店
平松電器店
和深
きままや食品店
滝本海運
銀(かねぎん)魚店
枯木灘
(太平洋)

昭和34年頃～40年頃

江住市街図

江住：小倉重起氏 提供

